

2021年4月、新部門体制発足。
より強固で柔軟な研究・実践活動を進めます。



災害科学国際研究所のロゴマークは、「災」の字を上下逆に転じたもので、「災いを転じて福となす」という決意を表します。

災害評価・低減研究部門

- 海域地震学研究分野 ● 陸域地震学・火山学研究分野 ● 地震工学研究分野
- 計算安全工学研究分野 ● 津波工学研究分野
- 災害ジオインフォマティクス研究分野 ● 気象・海洋・宙空災害研究分野
- 災害対応ロボティクス研究分野

災害人文社会研究部門

- 災害文化アーカイブ研究分野 ● 歴史文化遺産保全学分野
- 認知科学研究分野 ● 国際防災戦略研究分野
- レジリエンス計画研究分野 ● 空間デザイン戦略研究分野

災害医学研究部門

- 災害医療国際協力学分野 ● 災害医療情報学分野 ● 災害放射線医学分野
- 災害精神医学分野 ● 災害産婦人科学分野 ● 災害公衆衛生学分野
- 災害感染症学分野 ● 災害口腔科学分野

防災実践推進部門

- 防災教育実践学分野 ● 防災社会推進分野 ● 国際研究推進オフィス
- 2030国際防災アジェンダ推進オフィス ● レジリエントEICT研究推進オフィス

寄附研究部門

- 地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門
- 都市直下地震災害(応用地質)寄附研究部門

共同研究部門

- イオン防災環境都市創生共同研究部門
- 日本工営レジリエントシティ技術実装共同研究部門

災害レジリエンス
共創センター

災害統計
グローバルセンター

気仙沼
サテライト

事務部

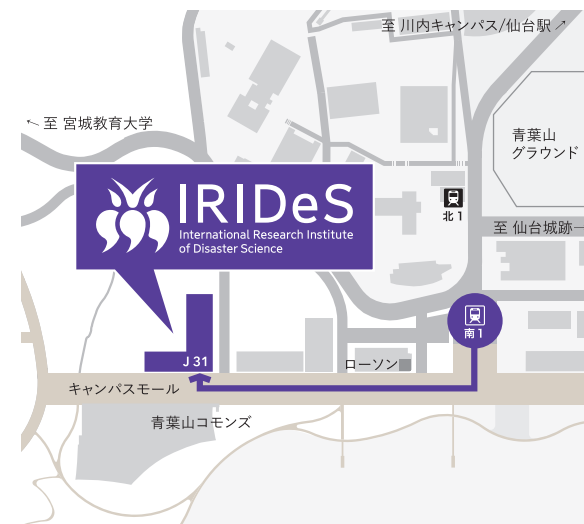
広報室

2012年4月	東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)設立(初代所長 平川 新 教授)
2013年4月	気仙沼サテライトオフィス設置
2014年4月	第2代所長 今村 文彦 教授 就任
2014年9月	災害科学国際研究所棟 竣工
2015年3月	第3回国連防災世界会議 仙台での開催に全面協力 (「仙台防災枠組 2015-2030年」が世界の防災指針となる)
2015年4月	国連開発計画(UNDP)と共同で災害統計グローバルセンター発足
2017年より	世界防災フォーラムを隔年で開催
2021年3月	東日本大震災10年シンポジウム開催、編著『東日本大震災からのスタート』出版
2021年4月	新部門体制発足
2022年4月	災害レジリエンス共創センター発足

ACCESS アクセス



災害科学国際研究所棟



仙台市営地下鉄東西線：
仙台駅から八木山動物公園行き「青葉山」駅下車
「南1」出口から出て正面のキャンパスモールを右へ徒歩約3分
タクシー：
仙台駅から約20分/料金:約1,600円



東北大学災害科学国際研究所

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1
<https://irides.tohoku.ac.jp/>

総務係 TEL:022-752-2011(代表) FAX:022-752-2013
E-mail:irides-syomu@grp.tohoku.ac.jp

広報室 TEL:022-752-2049
E-mail:koho-office@irides.tohoku.ac.jp



TOHOKU
UNIVERSITY

気仙沼サテライト



〒988-0246 宮城県気仙沼市波路上瀬向9-1
無料駐車場完備。公共交通機関の利用も可。
詳しくは伝承館のホームページをご覧ください。
<https://kesenuma-memorial.jp/>

災害を、科学する

International Research
Institute of
Disaster Science

IRIDeS



International Research Institute
of Disaster Science

GREETINGS



東北大学災害科学国際研究所 所長
今村 文彦 教授

地球規模の視点で災害のメカニズムを解明。
国境、文化を超えて世界の災害軽減に貢献します。

災害科学国際研究所 (IRIDeS: International Research Institute of Disaster Science) は、東日本大震災の約1年後に発足した、東北大学で最も新しい研究所です。2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震およびそれに伴う巨大津波が発生し、福島第一原子力発電所の事故も加わって、広域複合災害「東日本大震災」となりました。この未曾有の大災害により約2万人が亡くなり、東日本は大きな打撃を受けました。その教訓から学び、大災害を二度と繰り返さないことを使命に、2012年4月、東北大学はIRIDeSを発足させました。

IRIDeSでは、文学・理学・工学・医学などの研究者約100名が4部門で活動し、災害科学の深化および実践的防災学の構築にあたっています。今日に至るまで、東日本大震災の被害把握、巨大地震・津波メカニズムの解明、震災アーカイブの整備など、着実な成果を挙げてまいりました。世界の防災指針「仙台防災枠組2015-2030」の実施を推進しながら、産・官・学・民連携に力を入れ、東北被災地の復興とともに国内外におけるレジリエント社会の構築を目指しています。今後も皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

PHILOSOPHY

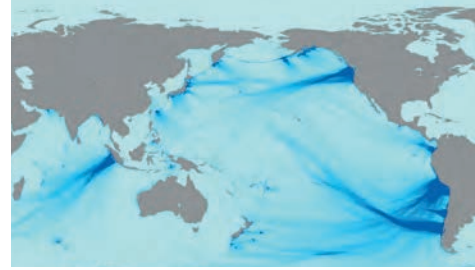
東日本大震災の経験と教訓を踏まえた基本理念



ORGANIZATION

災害評価・低減研究部門

理学と工学の統合により、国内外の災害評価及び対応に関する先端研究を推進します。被害の現地調査、各種観測、自然現象と被災過程の数値シミュレーション、先端的リモートセンシング、可視化、ロボット関連技術の開発などの研究に取り組み、防災・減災につながる実践的提案も行います。



災害医学研究部門

連携により発災前から復興期までに関する途切れない研究を行い、広域・複合災害対応型災害医学の確立と最新科学技術の現場への導入に取り組みます。医学の立場から災害への革新的対応を先導し、新型コロナウイルス対策に関しても総合的な学理解析・対策を行います。



寄附研究部門

企業等からの寄附金によって、大学における教育・研究の豊富化、活用化を図ることを目的として設置、運営されています。

災害人文社会研究部門

人の心と行動・建物・社会基盤を含む国内外の地域社会を研究対象に、災害教訓を未来に伝え、各地の防災と復興に資することを目指します。歴史・アーカイブ、地域・都市・空間デザイン、認知特性の研究を連携させ、変化する災害に対応した被害軽減と、レジリエントな地域社会構築に向け具体策を提言する研究に取り組みます。



防災実践推進部門

実践的研究を行うと同時に、研究成果の社会実装や地域・国際連携による防災・減災に取り組みます。研究成果は「世界防災フォーラム」や国連の主要会議をはじめとするさまざまな場で国内外に発信し、仙台防災枠組の実施に貢献しています。



共同研究部門

企業等から資金・研究者等を受け入れ、研究成果の実用化を目指します。

災害レジリエンス共創センター

多様な主体と連携し、災害レジリエンスを最大化する「総合知」を共創します。

災害統計グローバルセンター

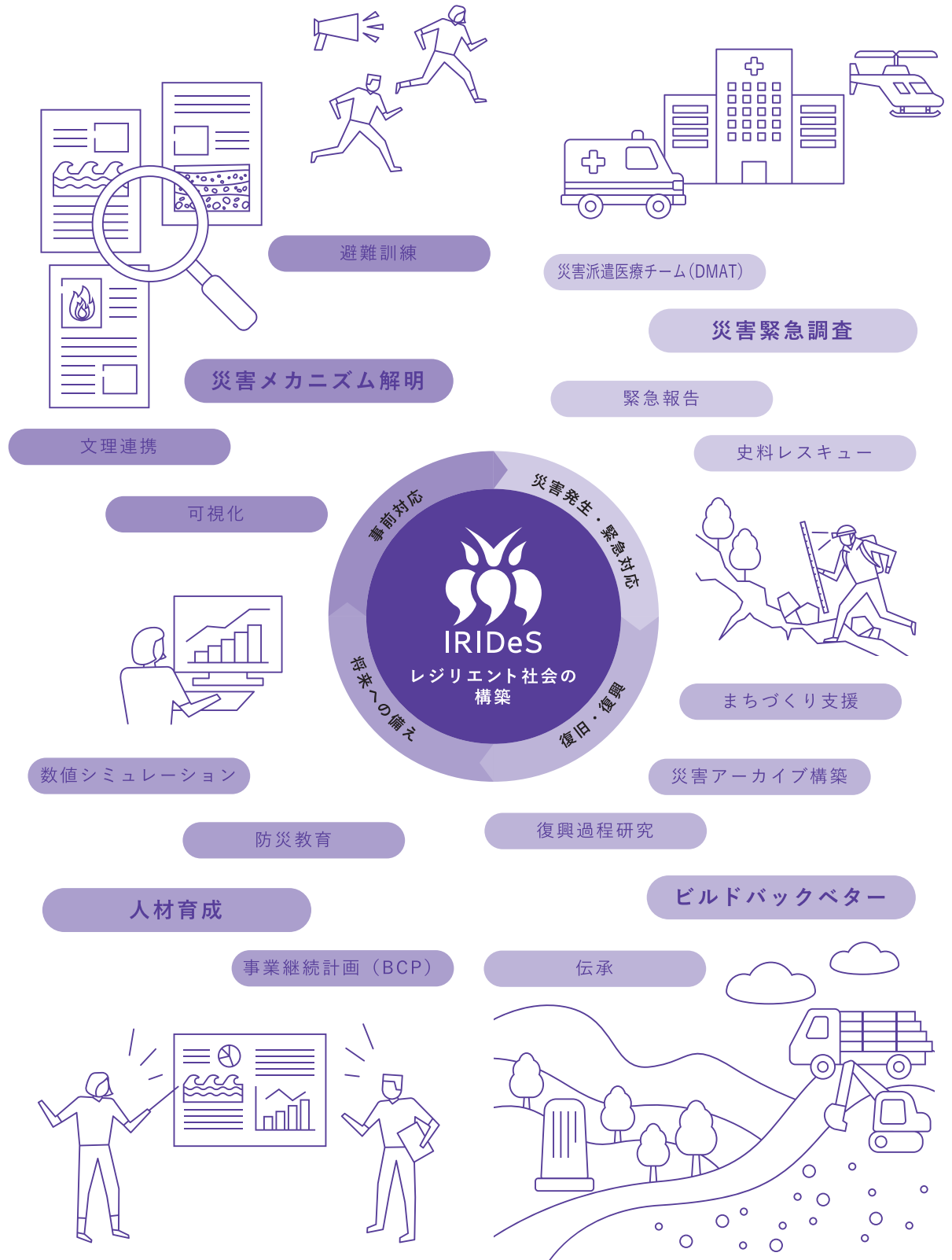
災害被害統計の収集・分析により世界の防災政策に貢献します。

気仙沼サテライト

研究成果の発信、実務者・市民との交流を推進します。

INITIATIVES

災害サイクルにおいて複雑化する課題を追及し、
仙台防災枠組をはじめとする
世界の防災アジェンダを推進。
レジリエント社会の構築を目指します。



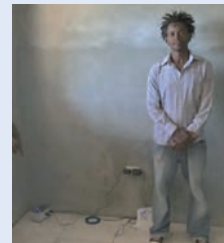
IRIDeS UPDATES

最近の活動から

2022年3月福島県沖の地震を受け、報告会を開催



2021年ハイチ地震：国際研究チームに参加し市民との協働で地震の詳細説明に成功



三陸海岸北部において1611年慶長奥州地震津波の物的証拠を発見
～日本海溝沿いで発生する巨大津波の頻度に関する新たな知見～



学校の防災教育担当教員向けオンライン講座「学区の地図を活用した災害リスクの理解」を構築



宮城県新型コロナ感染症医療調整本部にて療養判定に従事

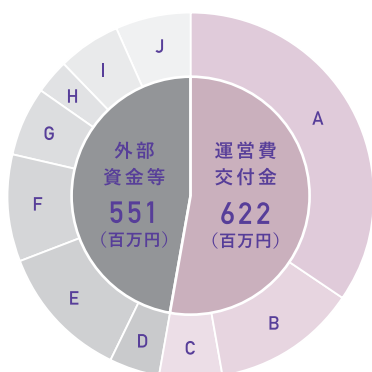


地域に残る歴史資料を活用した1804年象潟地震の実態解明
～秋田県にかほ市象潟町関における被災と復興の研究～



詳しくはIRIDeSホームページをご覧ください。 <https://irides.tohoku.ac.jp/>

2021年度の歳出決算額



1,173 百万円

● A 運営費交付金(教員人件費)	406
● B 運営費交付金(教育研究費)	148
● C 運営費交付金(機能強化経費)	68
● D 間接経費	52
● E 科学研究費補助金	138
● F 受託研究費	111
● G 共同研究費	74
● H 受託事業費	33
● I その他補助金	68
● J 寄附金	75

(単位:百万円)

教職員数

2022年5月1日現在

232人

専任教員	72人			
● 教授 26	● 准教授 22	● 講師 3	● 助教 19	● 助手 2
兼任教員	36人			
● 教授 22	● 准教授 11	● 講師 1	● 助教 2	
特任教授(客員)・特任准教授(客員)	18人			
その他 シニア研究員・研究員・技術補佐員など	86人			
事務部	20人			

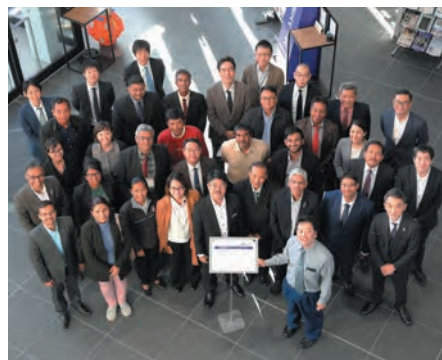
IRIDeS UPDATES

国際連携

世界各地の大学・研究機関や国連等と連携し、災害科学および防災の分野で最先端の研究・実践を進めています。



- 国際研究推進オフィスを設置
- 世界防災フォーラムを開催
- 環太平洋大学協会(APRU)の防災活動をリード
- AIWESTとの連携 など



災害統計グローバルセンター
東北大学・国連開発計画(UNDP)・富士通株式会社が牽引

国内連携

東日本大震災被災地での復興や、地域の防災・減災対策を支援しています。

- 復興まちづくり
- 避難訓練
- 防災教育 など
- 被災自治体等との連携協定



気仙沼サテライト
地域連携の取り組みを推進

地方自治体

岩手県 陸前高田市
宮城県 石巻市・岩沼市・気仙沼市・仙台市
多賀城市・名取市・東松島市・丸森町
山元町・亘理町

教育機関

青森県 八戸工業大学
(インフラ・防災技術社会システム研究センター)
宮城県 多賀城高等学校
宮城教育大学防災教育研修機構
福島県 福島工業高等専門学校
新潟県 新潟大学災害・復興科学研究所

伝承施設

岩手県 東日本大震災津波伝承館



一般公開

研究・実践成果を広く公開し、所外の方々との連携を促進する場を設けています。

金曜フォーラム

年に5回程度、金曜日の夕方に開催しています。毎回、テーマを設けてIRIDeS研究者やゲストが発表を行います。

展示スペース

IRIDeS棟1階・2階にて研究例などを紹介。

その他

東北大学片平まつり・オープンキャンパス参加、シンポジウム開催 など